

## 平成21年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮共和大学
団 体 等 名	シティライフ学部 松本ゼミ (2年)
学生代表者氏名 (所属・学年)	大塚友久
責任教職員氏名	専任講師 松本晃子

1. 事業名	烏山和紙を使った雑貨の提案												
2. 実施時期	平成21年12月5日 (日)												
3. 実施場所	宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス												
4. 事業の内容等	<p>伝統工芸「烏山和紙」と宇都宮の工業として生産されていた帽子的材料であった「木片織り」を再現させ、伝統工芸の新しい展開を試みた。</p> <p>まず、平成21年5月に「木片織り」の歴史を知るために昭和40年代後半まで操業していた神野スパルトリー株式会社の神野喜三郎氏に、当時の様子をヒアリングすることからスタートした。</p> <p>木片と和紙が似た材料であることから、和紙から木片織りを真似た帽子や新しい商品開発のプレゼンテーションマップ (アウトドア缶詰め) を作成し、同年7月にはマップを持参して烏山和紙会の福田氏を訪問して開発案のプレゼンテーションを行った。同時に和紙の製造工程を見学させてもらいながら、那須烏山市への観光を検討。</p> <p>10月に2年前に行った宇都宮市民へのアンケートを行い、宇都宮の地域ブランドとしての伝統工芸品の認知度を検討。さらに松本先生が行った首都圏へのアンケート調査と同じ項目も入れて、首都圏と宇都宮市民の意識の差をまとめた。11月29日には東京・王子にある和紙博物館及び池袋の伝統工芸館を見学し、和紙と伝統工芸の見聞を広めた。</p> <p>これらを12月5日に行われた栃木県学生&amp;企業研究発表会にて発表した。</p>												
5. 事業の成果と今後の課題	<p>今後も地域ブランドと伝統工芸などを通じた観光や地域発信の新しい形態を模索していく予定。反省点としては、木片織りを生産していた職人の方に高齢のためにお会いすることが出来ず、きちんとした再現が出来なかったことである。薄れていく歴史をきちんとした形で残しつつ、現代に蘇らせる方法を別の視点から検討していきたい。</p>												
支援金清算	<table> <tr> <td>①烏山和紙代</td> <td>8, 7 5 7円</td> </tr> <tr> <td>②プレゼンマップ画用紙代</td> <td>6 0 9円</td> </tr> <tr> <td>③和紙博物館他見学交通費</td> <td>1 5, 2 8 0円</td> </tr> <tr> <td>④参考書籍代</td> <td>6, 7 2 0円</td> </tr> <tr> <td>使用合計</td> <td>3 1, 3 6 6円</td> </tr> <tr> <td>残金</td> <td>6 8, 6 3 4円 (足利銀行へ振り込み)</td> </tr> </table>	①烏山和紙代	8, 7 5 7円	②プレゼンマップ画用紙代	6 0 9円	③和紙博物館他見学交通費	1 5, 2 8 0円	④参考書籍代	6, 7 2 0円	使用合計	3 1, 3 6 6円	残金	6 8, 6 3 4円 (足利銀行へ振り込み)
①烏山和紙代	8, 7 5 7円												
②プレゼンマップ画用紙代	6 0 9円												
③和紙博物館他見学交通費	1 5, 2 8 0円												
④参考書籍代	6, 7 2 0円												
使用合計	3 1, 3 6 6円												
残金	6 8, 6 3 4円 (足利銀行へ振り込み)												